

令和5年度 学校自己評価システムシート (さいたま市立植竹中学校)

学校番号 228

【様式】

目指す学校像	「古くて新しい植竹中の創造」～わかる授業 明るい学級 夢を育む学校～
--------	------------------------------------

重点目標	1 生徒の能力を引き出し、内容の定着を図る「わかる・できる」授業の展開 2 安全・安心で豊かな学校づくりの推進・整備 3 地域に根ざし、信頼される学校づくり（コミュニティスクール）の推進 4 働き方改革を踏まえた、チーム「うえたけ」のバージョンアップ
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学校自己評価			年度評価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査では、全国平均よりポイントが国語(5.0)、数学(5.6)、理科(2.7)上まっている。市の学習状況調査でも、各学年ともに市内上位(1/4)に位置する。 ○中学校入学段階で、基礎学力の定着状況に大きな個人差がみられる。 ○端末の活用状況は、昨年12月段階で「週3回以上」の生徒が80.6%(市平均75.1%)である (課題) ○学習において小学校との連携を進める上で、合同研修会の開催内容及び情報の共有化を図っていく必要がある。 ○大規模校のため、通信環境が悪く、学年全体や全校生徒が一斉にタブレットを使うことができない。また修繕にかかる日数が多い。	・情報端末の活用と学びの自律化における授業改善 ・ICT機器の利用方法を生かした学力の向上	①小・中合同研修会を6月に開催し、各教科でタブレット活用研修の実施。 ②6年生対象のチャレンジテストを実施。その結果を中学校側が分析し、小・中合同で共有化を図り、課題を明確にする。	①教職員の研修後の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。 ②小学校教員に対してのアンケートにおいて、肯定的な回答の割合が80%以上となったか。	①夏季休業中に小・中合同研修会を開催。大砂土小学校の先生が、各教科において指導の立場となり、ICTの効果的利用について協議した。 ②チャレンジテストは12月に実施。冬季休業中に採点、分析を行い1月に各小学校へ通知。校長はじめ肯定的な意見は100%であった。	B	・小・中合同研修会の実施内容については、管理職が事前に話し合い、地域、児童生徒、教職員の課題等を適切に判断し、毎年継続して実施していく必要がある。 ・チャレンジテストについても軌道に乗ってきており、継続していく。	学校運営協議会からの意見・要望・評価等 教員のICT活用に関する意識改革は進んでいるが、本校の通信環境が非常に悪く、クラス全員がネットに繋がらない状況がある。市の学習状況調査も非常に困難な通信状況下での実施となっているため、市教委への改善要望を続けてもらいたい。 学区内の小学6年生に12月に実施する「植竹中チャレンジテスト」は、中学校の文字と同じサイズで問題作成するなどの工夫がありとても良い。また、各教科の教員が採点・分析し、結果を小学校と共有して指導に生かしていることも学力向上に繋がっている。また、学習室の生徒も積極的に学習状況調査や学力検査等を受けているため、全体的な学力向上にも繋がっている。
2	(現状) ○全国学力・学習状況協調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に対し、肯定的な回答をした生徒が、全国平均を9ポイント上回っている。 ○教室に入れない生徒の学習室を設置し、学びの場として活用している。 ○教職員、生徒の事故防止のための取り組みが進められている。 ○特別教室棟(理科室・技術室・調理室)の老朽化が進み、改築が必要である。 (課題) ○学習室を次へのステップアップをする場としての工夫、改善が必要である。 ○大規模校としての特別教室の改築は喫緊の課題である。 ○教職員、生徒の安全に対する意識と技術をさらに高めしていく必要がある。	・一人ひとりの生徒に対するの細やかな教育支援に対応した行内体制の充実 ・学校施設の改修計画の策定 ・安全、安心な学校づくりの推進	①生徒指導、教育相談委員会での個人データを蓄積できるファイルをエバンジェリストが作成し、3年間を通して支援ができる体制づくりを進める。 ②学習室利用の生徒に対するの学びの補償としてSAの配置、安全管理として地域のボランティア人材の活用をさらに進める。	①個人データファイルの作成ができたか。 ②学習室利用生徒、保護者のアンケートにおいて、肯定的な回答の割合が70%以上となったか。 ②地域ボランティアとの情報交換打ち合わせを学期に最低1回開催できたか。	①個人データファイルについては、エバンジェリストを中心に現在、最終確認中。 ②学習室利用の手引きの改正を行い、保護者の8割以上に肯定的回答を得た。また、地域ボランティアとの情報交換は、1・2学期に実施。今学期に3回目を開催し、次年度に向けての意見等を聴取する予定。	B	・指導の記録等が、データファイル化され、年度、担任等が変わっても継続して支援ができる体制をさらに構築していく必要がある。 ・地域ボランティアについては、さらに密接な関係を作り、個人情報等の取扱い等についても継続して協議していく。	
3	(現状) ○全国学力・学習状況調査において「地域の行事に参加していますか」の質問に対し、全国平均を12.6ポイント下回っている。 ○自校文化をさらに高めていくために、創立70周年を機に、生徒主体の記念事業を進めている。 (課題) ○部活動が盛んなため、なかなか地域行事に参加できない状況にある。 ○コロナ禍で開催できなかった事業を復活させることが重要である。 ○学校支援組織(PTA・後援会)明確にし、地域の協力も得られる体制づくりに移行していく必要がある。	・自校文化における魅力発信及び開かれた学校づくりの推進 ・PTA、後援会、地域との密接な関係づくりの構築	①70周年記念事業等、生徒主体の内容とし、記念誌も生徒実行委員会が作成する。 ②コミュニティスクールとして、積極的に生徒の地域行事参加を募り「地域の一員」としての誇りを持たせる。	①学校評価アンケートにおいて保護者、生徒の肯定的な回答の割合が85%以上となったか。 ②地域行事参加生徒が、延べ300人以上となったか。	①生徒中心に記念式典を実施。記念誌についても編集委員を公募し作成。学校評価においても92%の保護者が肯定的であった。 ②地域のお祭り、わかたけスマイルフェスティバル、避難所運営訓練等に延べ316人が参加。地域からも好評であった。特に避難所運営訓練においては、公募で募集した生徒たちが、搬送訓練、簡易トイレづくりに取り組んだ。また、AEDを含む心肺蘇生法の指導者として地域の方に指導。	A	・今後も「生徒をど真ん中に据えた学校経営の実現」を重点目標とし、それを支援できる教職員の体制をさらに強化していく必要がある。	
4	(現状) ○ICT活用に関する研修会をエバンジェリストを中心に進めている。 ○ストレスチェックの結果は良好だが、「負担や多忙感を感じている割合が90%と高い。(市平均88.3%) (課題) ○ICTの活用についての教員間、教科間の差が大きい。 ○経験値の差から、部活動、校務分掌や学年分掌の力量に偏りがみられる。	・働き方改革を踏まえた居心地の良い、チーム「うえたけ」のバージョンアップ	①情報端末やアプリの効果的活用方法についての研修会を定期的に進める。 ②自己評価シートにおける行動プロセス評価の視点を理解し、キャリアnaviを活用し、教員個々の資質向上指標に取り組む。 ③スポーツを科学する取り組みから、部活動の効果的な指導法の工夫・改善を図る。	①すべての教員が、自らの目標に向けての研修に取り組み、結果として90%以上の教員が目標達成を実感することができたか。 ②自己評価シートにおける行動プロセス評価のB評価の割合が90%以上となったか。 ③該当部活動の満足度が90%以上となったか。	①②自己評価シート面談で、B評価以上が100%であった。 ③「スポーツを科学する」取り組みでは、スポーツ政策室から部活動単位ではなく、今年度から1・2年生対象に変更となった。特に1年生については、毎朝、睡眠時間、食事内容等をタブレットに保管。3年計画で進めることとなり、今後の変容が楽しみであるとともに、教職員にも大きな好影響を与えている。	B	・教職員一人ひとりが、自己の課題をしっかりと分析し、必要な研修内容を管理職が事前に提供できるシステムを構築していく必要がある。 ・教職員の経験からの指導だけではなく、科学的な根拠を経ての指導が必要であるとともに、生徒も教職員もこれまでの取り組みを見直し、改善していく必要がある。	

